

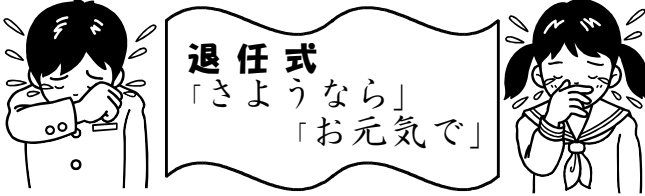
# 北斗通信

エバーオンワード(限りなき前進)

藤岡市立北中学校校長室通信

平成22年4月16日(金)

NO. 4(通算66)



「逢うは別れのはじまり」とは言うものの、やはり別れは悲しくつらいものです。人が生きていく限り避けることのできないことなのですが。

本日は、昨年度末の人事異動で北中学校を転出された先生方が、生徒たちにお別れの挨拶にみえました。先生方の心のこもった挨拶に、生徒たちの中には、目に涙を浮かべる者もいました。

転出された先生方との話の中で、「地域の方、とりわけ保護者の皆様には大変お世話になりました。何かのときに校長先生から『ありがとうございました』と伝えておいてください。」と頼まれました。先生方もよい思い出を胸に北中学校を去っていったと思います。

**毎日が挨拶運動!**  
月曜日は神流更生  
保護女性会と共に



「みそあじ」の「あ」であるあいさつについて、前号で簡単に説明しました。

昨年と比べ今年は、気持ちのよいあいさつが毎日交わされるようになってきました。本当に素晴らしいことだと思っています。そこには、毎週月曜日の朝、正門前であいさつ運動を展開している神流更生保護女性会の方々のお力があります。暑いときも、寒いときも北中学校の生徒に「おはようございます」と声をかけ続けてくれます。「地域の子どもは地域で育てる」を合言葉に2年前より実施しています。心よりお礼申し上げます。

さて、保護者のみなさんは、朝我が子と顔を合わせたとき、最初に「おはよう」と声をかけていますか。まさか「早くしな!」とか「早く食べて!」などと言わないですね。あいさつは「心と心の潤滑油」です。喧嘩したって、嫌なことがあったって、次の日大きな声で「おはよう」って言えば仲良くなれます。あいさつは魔法のことばなんです。

## 什の掟

- 一つ、年長者の言うことに背いてはなりません
  - 二つ、年長者にはお辞儀をしなければなりません
  - 三つ、虚言を言うことはなりません
  - 四つ、卑怯なる振る舞いをしてはなりません
  - 五つ、弱いものをいじめてはなりません
  - 六つ、戸外で物を食べてはなりません
  - 七つ、戸外で婦女子と言葉を交えてはなりません
- ならぬことはならぬものです

これは、会津藩(江戸時代：現在の福島県)の学校である日新館の「什の掟」といわれるものです。「什の掟」とは、会津藩士の子弟の心得を示したものです。

今一度什の掟を読んでみてください。どうでしょうか、一から五までは、今の時代でも立派に通用する心得だと思いませんか。六については、今でも意見の分かれるところだと思います。七については、私も「?」です。でも一から五のように時代が変わっても、変わってはいけないものがあるのではないのでしょうか。



年長者の意見を素直に聞きなさい、嘘をついてはいけない、人をいじめてはいけないなど、あたりまえのことなのです。でもそれが、今も昔も守れないということなのでしょうか。残念です。

そして、七つの心得の後ろに「ならぬことはならぬものです」という言葉が出てきます。今風に言えば、「だめなものは、だめ」ということです。

なんか冷たい言葉のようですが、親がこの言葉を言えるか言えないかで子どもの将来が決まるといっても過言ではありません。

保護者の皆さん、子どもにきちんと「だめなものは、だめ」と言えるのでしょうか。健やかな成長を期待しています。

